

I 国富町教育振興基本計画の策定について

1 日本の教育、戦後教育の流れ

わが国には、世界の中でも最も優れた教育の成果を示してきた歴史がある。

盛んな藩教育により高い識字率を誇った江戸時代はもとより、明治以降も教育によって新しい国づくりを進め、国を背負う人材を育成するという学校教育への期待には、大きなものがあつた。

第二次世界大戦後、日本は世界有数の経済発展を遂げたが、まさに教育が国を蘇らせたものと言ってよい。しかし、経済発展による豊かさは反面、教育に多くの弊害をもたらした。産業構造の変化により人口の都市集中が進み、核家族化の進行とともに地方の人口は減少した。家庭や地域社会の教育力は著しく弱体化していった。また、情報通信機器の普及は、子どもたちの直接的なコミュニケーションの場を減らし、社会性の伸長を妨げる要因となっている。さらにバブル崩壊以降、デフレ不況による農業や国内産業の衰退にともなう若い世代の就職困難や深刻な経済格差、貧困などをもたらした。これらは、日本人の将来への不安、ひいては若い世代の夢の喪失に少なからずつながっている。かつては集団の中で鍛え上げられてきた日本人の精神的な強さも影をひそめ、若年層の自殺やいじめ、犯罪の増加などは、今日の大きな社会問題の一つとなっている。

2 教育における今日的課題とこれからの教育

人づくり（教育）の視点に立って今日の日本の現状をみると、少子化にともなう学校教育上の課題や高齢化や経済格差による地域社会の連携の在り方などさまざまな問題が挙げられる。

これからの日本に必要なことは、グローバル化が進む世界の中で国の立ち位置をしっかりと定め、国際社会の中で確かな役割を果たすことができる強く豊かな日本を再構築することである。そのためには、「社会人として自立した人間の育成」はもちろんのこと、「国の課題を自分のものとして考えたり、身近な地域社会での活動へ積極的に参加したりする意欲と資質をもった人間の育成」を推し進めていかなければならない。

平成18年の教育基本法改正では、今日求められる教育の目的や理念、教育の実施

に関する基本を定めるとともに、国及び地方公共団体の責務を明らかにし、「教育振興基本計画」を定めることなどについて規定された。世界と日本が大きく変化しつつある今日、新しい教育の姿とその具体化の方策を明確にすることが急務とされている。

文部科学省は平成20年に「教育振興基本計画」を作成した。その中で、「すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる」、「社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材」の育成に言及しているが、まさに教育の今日的課題に対応した基本政策である。さらに、平成25年には、「自立・協働・創造」をキーワードとする「第2期教育振興基本計画」を発表した。

そして、宮崎県は、「第二次教育振興基本計画」（平成23年7月）において、「県民総ぐるみによる教育の推進」「生きる基盤を育む教育の推進」「自立した社会人・職業人を育む教育の推進」「魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実」「生涯を通じて学び、挑戦できる社会づくりの推進」という5つの施策の目標を掲げている。学校教育はもちろんのこと社会教育を含む生涯学習について、その役割の重要性を強調している。

3 国富町の教育をめぐる現状と今後の課題

町内には、国指定文化財である本庄古墳群をはじめとする多くの古墳が広く分布していることから分かるように、古代において国富は地域の中心であった。中世においても諸県荘の中心地であったが、南北朝から戦国期には近隣諸大名の争いの場となった。しかし、江戸元禄期以降本庄は御料地（天領）となり商業が発展し、多くの富豪が出た。明治期には、名を知られた儒学者を輩出し、教育に対する関心が極めて高い地域といえる。

町内の小中学校は、旧4カ村（本庄、森永、八代、木脇）に設置された。それぞれ長い伝統を有し、地域との結びつきも強いものがある。平成21年度には旧八代村の3つの小学校が統合され、それまで9校あった小中学校は7校になった。平成25年5月1日現在、児童数999と生徒数545を数えるが、漸減傾向にある。少子化は、学校教育に少なからず影響を及ぼしており、社会性の育成や切磋琢磨の機会の減少をもたらしている。

三世代家庭の占める割合は高く、高齢者の学校教育への協力や子ども見守り活動、高齢者も含めた生涯学習活動は極めて活発である。地域行事への子どもたちの参加率もよく、地域の教育力は高いといえる。

このように、国富町は、他市町村にない優れた歴史的・文化的な教育的資源と人材、豊かな自然環境に恵まれている。国富町教育を考える場合には、これらを十分に生か

しながらの人づくりを考えていく必要がある。

4 計画の策定と位置づけ

第五次国富町総合計画（2011年度～2020年度）では、このような町の実態を踏まえ、第3章[時代を切り拓くための基本理念]として「人が・地域が・まちが「元気」な健康田園都市 i ハートくにとみ」（第1節）を今後の望ましい姿として掲げ、さらに第3節の1「心豊かでいきいきと輝く人づくり」のために、第2部基本計画第1章で施策展開の体系に「未来を切り拓く元気な人づくり」「生涯学習ではぐくむ豊かな心づくり」「歴史と文化香るふるさとづくり」「いきいきと楽しむスポーツづくり」の4つを挙げている。

これらを踏まえて国富町教育委員会では、将来の国富町を見すえ、町民一人一人が心身ともに健康で、いきいきと生涯を送ることができる社会の実現をめざし、今後10年間の人づくり、教育の方向を定めた「国富町教育振興基本計画」を策定することとした。

5 計画の期間

平成25年度（2013年度）から平成34年度（2022年度）までの10年間とする。なお、必要に応じて見直しを図るものとする。

「国富町教育振興基本計画」策定の構想

1 計画策定の趣旨

- (1) 「第五次国富町総合計画」（２０１１年度～２０２０年度の１０年間）を受け、さらに具体的な教育ビジョンを策定して、国富町教育の充実発展を図る。
- (2) 教育基本法の改正により、国の基本計画を参酌しつつ県や市町村でも教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めることが義務付けられた。（同法第１７条）
- (3) 宮崎県でも「宮崎県総合計画～未来みやざき創造プラン～」に基づき、平成２３年７月に今後１０年間を目途とする「第二次宮崎県教育振興基本計画」が策定され、総合的かつ計画的な取組がスタートした。

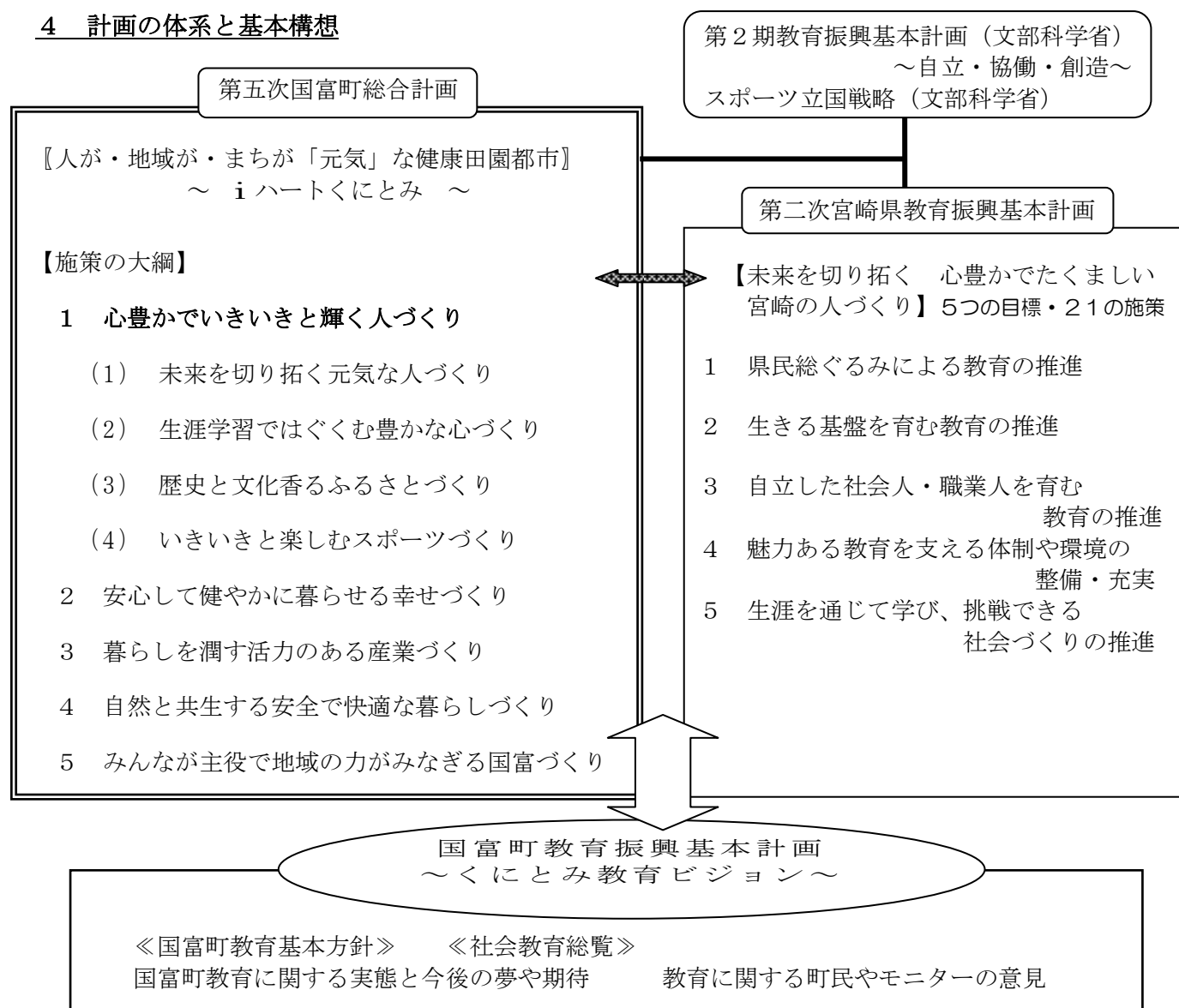
2 計画の期間

本計画は、平成２５年度（２０１３年度）から平成３４年度（２０２２年度）までの１０年間の計画とする。なお、必要に応じて見直しを図る。

3 計画策定までの道筋

町内の幅広い分野からの代表者による協議を進め素案を作成する。さらに、首長部局の意見やパブリックコメントも求めながら計画を策定し、教育委員会に諮り、結果を広く公表する。

4 計画の体系と基本構想



Ⅱ 国富町の生涯学習、学校教育、社会教育、家庭教育の

現状と課題

1 生涯学習の現状と課題

生涯学習体系への移行が叫ばれる中で、物の豊かさから心の豊かさへの志向の変化とともに、本町においても余暇時間を活用した生きがいつくりや各種学習機会へのニーズが高まってきている。

今後ますます、それぞれのライフステージに応じた学習が展開されていく必要があり、多彩な学習ニーズに応える学習内容の充実や学習機会の拡充が求められる。

そのためには、行政機関のみならず、関係機関やボランティア、自主的な学習グループなど、町内のそれぞれの組織や団体等で行っている事業を町民の視点から総合的に整理し、体系化して一人一人の自己実現が図られるような体制づくりが必要である。

そのためにはまず実情をしっかりと把握し、「国富を愛し、元気で自立した人づくり」をめざした施策を展開していかなければならない。学習機会の拡充や学習情報提供の工夫などを通して、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯学習・生涯スポーツに親しめる町にしたい。

2 学校教育の現状と課題

小中学校における教育の目的や目標は、教育基本法及び学校教育法に示される。本町でもこれらを受け、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成をめざし、全小中学校が一体となって学校教育の充実発展に努めるとともに、子どもたちを取り巻く諸々の教育環境の整備や家庭教育の充実が求められている。

とりわけ、確かな学力の向上、豊かな心を育む教育の充実、体育や食育の推進による「生きる力」の育成は、本町における今後の最重要課題である。

(1) 児童生徒の学力

町内児童生徒全体としては平均的な学力を有しているが、上位と下位の差が大きい

のが実態である。さらに、高校進学時の進路選択においては、宮崎市内の子どもたちとの競争にさらされるというきびしい現実がある。

今後は下位の子どもたちの学力を向上させることはもちろん、将来の夢の実現のためにも、町内すべての子どもたちのさらなる学力向上を図る手立てを講じていくことが必要である。

町内小中学校では、各中学校ブロックごとに、学習指導と生徒指導の両面で小中一貫した指導を行っており、小学校と中学校の学習指導方法や学習訓練、学習習慣等の面において系統立った指導の成果が見られるようになってきた。

本町児童生徒の学力向上のためには、学校においては教師の授業力を高めるための校内研究の充実、家庭においては望ましい学習習慣や生活習慣の形成が欠かせない。また、幼稚園・保育園と小学校との接続、小学校と中学校との接続を円滑なものにして子どもたちが安心して学べる環境を整える努力も忘れてはならない。

国富町学力向上推進協議会を中心とした町全体の学力向上の取組をさらに推進することはもとより、町校長会、町教頭会、町PTA連絡協議会、町教育研究会など、各種関係団体や組織のそれぞれの活動の充実と、さらにそれらの連携のもとに、本町の学力向上を図っていくことが求められる。

(2) 児童生徒の体力

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果と照らし合わせてみると、本町の児童生徒の体力は概ね平均的である。しかし、運動する子どもとしない子どもの二極化傾向が見られる点は全国的な傾向でもあり、本町も例外ではない。

このことは、少子化にともなう遊び集団の減少、電子ゲーム機の普及や安全性への不安からくる屋外遊びの減少も、大きく影響していると考えられる。

学校においては、体育、保健体育の時間における運動量の確保はもちろんであるが、屋外で身体を動かす時間の確保や校庭の遊具の工夫、全校挙げてのストレッチ運動やなわとび運動、持久走の時間の設定等に取り組んでいる。

また、スポーツ少年団活動に対する支援とともに、日常生活の中での運動や身体を動かす遊びの機会と環境を保障し奨励していくことが重要である。

(3) 豊かな心と人間関係

本町の子どもたちは、純朴で素直な側面と、テレビ、雑誌、インターネットなどが

らもたらされる情報に左右されやすい側面をあわせもっている。あいさつがよくでき、明るく素直であり、指導を受け入れる姿勢が良好であり、穏やかで順調な学校生活を送ることができている反面、情報社会の中で自ら思考し判断するなど自主性や主体性の面においては課題がみられ、日常の人間関係の上でもたくましがやや不足している面がみられる。

今後は、純朴で素直な面を認めつつも、強い精神力をそなえ、主体的で能動的、積極的な生き方を育む教育の充実が求められている。

また、生徒指導上の諸問題に関しては、学校と家庭、関係諸機関の連携を密にし、子どもの人間関係を注意深く見守り適宜の指導を行うとともに、家庭教育を支援する体制を整備することが必要である。

子どもたちが強い精神力をそなえてたくましく成長するためには、家庭、学校、地域がそれぞれに人間関係の絆を深める場でなければならない。

(4) 家庭・地域の教育力

学校教育に対しては関心が高く、地域の方々の学校行事に対する協力は非常に積極的である。保護者においても、学校に対して協力的であり参観日の出席率も高い。

朝の登校指導を兼ねて、保護者や地域の方々が街頭に立ち子どもたちと笑顔であいさつを交わす様子は、本町では日常的にみられる光景である。

このように、本町では、地域住民の支えがあって、子どもたちは安心して安全な環境の中で楽しい学校生活を送っているといえる。

一方、保護者の抱える不安の中では、家庭での生活習慣や学習習慣の形成に関するものが大多数を占めており、さまざまな要因により家庭生活の基本的なリズムが整っていない家庭が多いことが考えられる。

町では、子育て講演会の開催や、家庭教育学級を通した家庭教育の充実を図る学習機会を設けているが、こうした学習機会に足を運ばない、あるいは運べない保護者が数多くいる実態もある。

今後は、さらに学校と家庭、地域が連携し、家庭生活における基本的な習慣形成が図られるような手立てが必要である。また、地域社会が家庭を支える意識づくりが期待される。

(5) 児童生徒在籍数

平成25年度の児童生徒在籍数約1,600名は6年後には約1,400名となる見込みであり、斬減傾向は続くと予想される。学級数が減り学校が小規模化していく中で、児童生徒一人一人へのきめ細かな行き届いた指導が可能になることが考えられる反面、たくましさや競争心等の集団活動を通じた社会性を育む教育をどう保障するかがますます課題となっていくことが考えられる。

その対策の一環として、国富町と綾町合同の小学校高学年児童による水泳教室や陸上教室、同じく二町合同の小中学校音楽大会を開催している。また、中学校では町内全生徒参加による中学生講演会や生徒会役員の交流・意見交換を行う中学生サミットを開催している。

今後もより積極的に学校間・校種間の枠を超えた集団活動推進の工夫が望まれる。

※予想される児童生徒数の推移

	平26	平27	平28	平29	平30	平31
本庄小	374	370	360	353	348	349
森永小	128	133	133	126	121	114
八代小	121	128	135	129	129	133
木脇小	364	360	361	348	342	313
小学校計	987	991	989	956	940	909
本庄中	278	274	261	263	257	250
八代中	77	63	59	59	60	58
木脇中	176	171	186	178	174	184
中学校計	531	508	506	500	491	492
小・中合計	1,518	1,499	1,495	1,456	1,431	1,401

3 社会教育、家庭教育の現状と課題

教育委員会では、子どもたちは元気な地域社会でこそ育つという考えのもとにすべての町民の生涯学習に力を入れている。その推進や運営、施設の維持・管理などについては、毎年度作成の「社会教育行政計画」のもとに実施している。

(1) 少年教育、青年教育、成人教育、家庭教育

少年教育、青年教育、成人教育、家庭教育いずれもが、元気な町民を育てるための重要な領域であり、一人一人が各種行事や集団活動への参加を通して、地域社会への所属感・一体感をもち、自己実現を図れるようになることをねらいとしている。

人間関係が希薄化し、家庭や地域における教育力の低下が指摘されている今日、少年教育では、子どもたちに豊かな知識や創造性を育むため、家庭内の読書、読み聞かせ講座等の芸術文化に親しむ学習活動や、地域の産業に従事する方々、生きた自然、脈々と伝承された文化等に触れながら、個々の生活力の向上や地域住民と喜びを分かち合うような体験学習の拡充が求められている。

地域の子ども会活動は、社会性の伸長、とりわけ異学年間の人間関係づくりの面で貴重な場となっている。子どもたちの主体的な活動の場として、さらに活動内容の充実が求められる。

また、地域ぐるみで学校教育を支援するため、地域ボランティアと児童生徒とのふれあいや農作業等の協働学習など、地域住民と学校、子どもたちとの連携を深める取組が大切である。

青年教育では、地域社会におけるボランティア活動や文化的活動等を通して、活力ある地域づくりを推進するなど21世紀を担う有能な人材の育成を図ることが必要である。

成人教育では、生涯学習に対する意欲は年々高まってきているが、余暇時間に恵まれている高齢者の参加が目立ち、働き盛りの成年男子や農家の主婦等の就労女性の学習機会の確保と自発的な学習意欲の喚起が課題である。

このように、町民のライフステージに応じたさまざまな学習ニーズに対応するため、学習情報の収集・提供、学習機会の拡充、自主的な学習グループの育成、学習内容の充実が求められている。

家庭教育では、PTA活動の活性化を進めるとともに、家庭での教育力の向上を図るため、保護者に対する啓発や子育て講演会、家庭教育学級の充実に努めることが求

められる。

今後も、個々の事業の成果や課題を見極めながら、生涯学習の拠点施設となる農村環境改善センターの環境整備や各種団体への支援体制づくりを推進していかなければならない。

(2) 文化の振興、文化財の保護と活用

町総合文化会館を拠点として、年間をとおして計画的に町文化協会所属団体や個人の芸術活動を支援し、文化活動の振興を図っている。文化財保護活動としては、国指定文化財（本庄古墳群、万福寺の木造阿弥陀如来他）をはじめ、数多く残る史跡や文化財の調査・整備、伝統ある民族芸能の保存・継承を行っている。

昭和63年からは、毎年「国富町ふれあい短歌大会」を開催し、県内でも有数の短歌推進の町として知られるようになってきた。

国富町総合町民祭は町民挙げての一大文化イベントであり、役場庁舎周辺を会場にして芸術、芸能、生涯学習の成果を広く町民に紹介しており、町外からも多数の参加者がある。

町内の多くの有形・無形文化財、史跡やその歴史を理解してもらうこと、また芸術文化活動を広く町民や児童生徒に知ってもらうことは、国富町を誇りに思い愛する気持ちを育むという大きな教育的意義を有する。本町は古くから文化の開けたところにあり、地域に伝わる神話、伝説などの掘り起こしや調査をすすめ、町民文化として保存・活用していくことが重要である。

今後は、町民が日常的に歴史ロマンや文化を感じられるような施策の検討が求められる。

(3) 図書館

平成17年にオープンした国富町立図書館は、長期的な蔵書計画に基づき資料の整備に努めるとともに、利用者のニーズに応じた館内閲覧環境や貸出システムの効率化を図っている。開館当初は、図書館入館者数、貸出冊数ともに年々増加していたが、平成24年度では、年間入館者数が約54,000人で1日の平均が約200人であり、ほぼ横ばい状況となっている。

そこで、利用しやすい親しみある図書館づくりをめざし、一般コーナーと児童コーナーにおいて毎月図書のテーマ展示を行っている。また、司書やボランティアに

よる絵本の読み聞かせも毎週実施している。なお、図書館のエントランスを利用した絵画展示や学校と連携した児童生徒の作品展示、図書館会議室での上映会も実施している。PR活動としては、広報くにとみによる新刊案内や事業案内はもとより、図書館だよりも毎月発行している。さらには、インターネットでの図書館ホームページによる新しい情報の発信、ネット上での蔵書の確認や予約など、利便性の向上に努めている。

今後も、読書普及活動や読み聞かせボランティア団体等の支援を行いながら、町民の読書意欲向上だけでなく、情報交換施設、学習施設として大きな役割を担っていききたい。

(4) 社会体育

スポーツを通して、町民の健康保持・増進や体力の向上を図ることは、明るい豊かな郷土づくり、元気な町づくりの土台であるとともに、地域社会の絆を育む意識の高揚にもつながっている。

旧小学校区を単位とする地区では、町民総スポーツの振興及びコミュニティスポーツの推進を図るため、区長、体育部長及びスポーツ推進委員で構成する地区体育会を組織し、各種スポーツ大会を開催することで、自己の健康状態や健全スポーツの生活習慣化、定着化に努め、地区民の健康維持と、人と人との交流促進や生きがいをづくり

に効果を上げている。

また毎年行われる町民総参加のウォーキング大会や青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団活動、各種スポーツ協会を中心としたスポーツ活動が盛んであり、「一人1スポーツ」を合言葉に、健康な町づくりを推進している。

今後は、国の「スポーツ立国戦略」に基づき、する人、観る人、支える（育てる）人を重視した考え方のもと、地区体育会、各種スポーツ協会等の活動の推進はもとより、専門的な知識をもった指導者の育成、町民の各ライフステージにおいて気軽に楽しめる新しいスポーツやレクリエーションの普及推進のための環境づくりが求められる。

また、2020年の東京オリンピックを見据えて、スポーツや健康づくりに対する機運の醸成を図りながら各種関連行事等を進めていきたい。

Ⅲ これからの国富の教育の方向

本計画における「今後10年間を見通した教育の方向」については、以下に示す4つのキーワードをふまえ、これを取り込んだ4つの「施策の目標」を設定する。施策遂行にあたっては総合的かつ計画的に取り組むため、「横と縦のつながり」を重視しながら、子どもたちを含む町民一人一人の自立をめざしたい。

1 「くにとみ教育ビジョン」計画全体の概要（P. 12）

2 施策の体系（P. 13）

3 4つのキーワード「自立」「つながり」「ふるさと」「元気」

「自立」 <夢や希望をもって未来を切り拓く> 一人一人がいきいきと人生を楽しむ

先行き不透明な時代にあって、社会をたくましく生き抜き、夢と希望をもって未来を切り拓き大きくはばたく力と主体的な行動力をそなえた人間の育成が国富の教育がめざす最終的な姿である。

「つながり」 <豊かな人間関係と地域づくり> みんなで地域を、みんなで子どもを

社会生活を営む上での人間関係は重要な要素であるが、近年の少子高齢化は、この国富町においてもさまざまな課題を生じさせている。

子どもの減少は、地域における子ども社会の喪失とともに、地域における世代間の交流を希薄にしている。本町でも例外ではない高齢化は、高齢者の安全・安心の問題をもひき起す。このような状況において、子どもの教育や高齢者の安全はもとより、町民すべてが生きがいをもち、自己の成長を図るためには、人と人との「つながり」は欠かすことができない。

国富町は、豊かな人情と厚い人間関係に恵まれており、「つながり」を最大限に生かした「町づくり」「人づくり」が期待できる。

【施策実施における「横と縦のつながり」の重視】

地域の絆を深め、学校教育、社会教育、家庭教育という教育の場の垣根、およ

び学校・校種間や教育行政各部門間の行政的垣根を低くすることにより、従来のそれぞれの成果を大きく上回る相乗効果が期待できる。それぞれの組織の見直しを行って組織マネジメントを高めると共に、目標の共有と施策の調整を絶えず行うことが肝要である。（横のつながり）

幼児から高齢者まで、国富ならではの生涯学習体系を構築するとともに、それぞれの持ち味を積極的に生かすことができる場と機会を充実し、地域づくり・町づくり・学校づくりを推進する。また、幼・保・小・中の連携や、小中一貫校の検討も進めていかなければならない。（縦のつながり）

「ふるさと」 <郷土愛、歴史と伝統・文化の振興> 生かそう自然、歴史と伝統

ふるさとの豊かな自然や人情味あふれる人々、そして先人から何世代にも渡って受け継がれた文化の力は、生涯の精神的な支えとなる。郷土のすばらしさにはじめて出会う幼年期から高齢期まで、これらに親しみ、感じ、理解する多くの機会を用意することは、本町教育の重要なテーマの一つである。

「元気」 <一人1学習・1スポーツの推進 生きる力の育成> 大人も子どももみんな元気

心身ともに健康な町は活気を生む。子どもを含めたすべての町民が、日常的に体を動かしたり、文化的な活動に参加したりすることで、喜びを感じ合い心身の健康を維持することができる。学校においても同様であり、心身の健康をもととして笑顔と活気あふれる学校教育が実現できる。

4 施策の目標

本町教育の10年後のめざす姿の実現に向け、次の4つを「施策の目標」とする。

第五次国富町総合計画第2部第1章との対応

I 町民総ぐるみによる教育の推進

II 学校教育・就学前教育の推進

III 町民の生きがいと健康づくりの推進

IV 教育を支える体制、環境の整備・充実

第1節 未来を切り拓く元気な人づくり

第2節 生涯学習ではぐくむ豊かな心づくり

第3節 歴史と文化香るふるさとづくり

第4節 いきいきと楽しむスポーツづくり

目標Ⅰ 町民総ぐるみによる教育の推進

＜関連するキーワード＞ 「つながり」

【現状・課題と対応】

少子高齢化は国富町も例外ではない。地域における人と人とのつながりの希薄化は、地域の教育力の低下となり、地域全体で子どもを育てることが難しくなりつつある。そのような中、「どの子も国富町みんなの子どもである」という意識をもち、町民一人一人が町の子どもたちの教育に関心をもつとともに、町全体で教育の課題を共有し、自らの自己実現への取組を始め、みんなで「教育の町・国富」に向かって前進していきたい。

施策1) 学校・家庭や地域の教育関係団体が一体となった取組の推進

当面する教育課題を共有するとともに、既存組織の活性化及び連絡調整の推進を図る。

① 教育に関する町民の意識高揚

- 教育委員会ホームページの充実
- 町民参加の教育講演会の企画・開催

② 安全で楽しく強い絆の地域づくり

- 地域での見守り活動
- 青少年育成町民会議の充実
- 世代間交流事業の推進

③ 子育て支援のネットワーク構築

- 「子育て支援センター」の充実
- 「ハートフルネットワーク委員会」を核とした行政・学校・保護者間の相談体制確立

施策2) 家庭や地域の教育力の向上

家庭や地域の教育力を高めるため、学校・P T A・行政や地域の関係諸団体が連携して取り組むほか、家庭の子育てを支援する体制を整える。

① 家庭の教育力を高める取組の充実

- 子育て講演会の充実
- 家庭生活や教育に対する相談支援体制の充実

② 地域の教育力を高める取組の充実

- 区長会や民生委員・児童委員協議会等との連携
- 青パト巡回活動
- スポーツ少年団や子ども会の活動推進

③ P T A活動の活性化支援

- 学校・行政と町P T A連絡協議会相互の連携推進

施策3) 開かれた学校づくりの推進

子どもの教育的課題を家庭や地域と共有するために、町内全ての学校の取組についての情報を提供し、町民の学校教育に対する関心と意識の高揚を図る。

① 地域との連携推進

- 学校支援ボランティア活動の充実と行政の支援
- 学校地域支援本部事業の拡充

② 学校教育の公開推進

- 保護者参観日や地域参観日の設定
- 地域の方々との交流事業等の充実、学校ホームページの充実

目標Ⅱ 学校教育・就学前教育の推進

＜関連するキーワード＞ 「自立」「つながり」「ふるさと」

【現状・課題と対応】

教育の最終目標は、一人一人の自己実現と自立した有為な社会人を育てることである。全ての小中学校が児童生徒の「生きる力」を育むための基本的な課題に対処するとともに、町の豊かな自然や歴史と伝統、人材を最大限に活用した教育を推進することで、他の市町村にない教育成果が期待される。また、小学校就学前教育の充実、および幼稚園・保育園と小学校との連携は、小中学校間の接続を核とする一貫した教育を推進する上で重要な課題である。

施策1)「生きる力」を身に付けた児童生徒の育成

自立した社会人として必要な学力、体力やコミュニケーション能力をもち、主体的に判断し行動できる児童生徒の育成を図ることは町の重要な教育的課題である。

宮崎市に隣接した本町は中学校卒業後の進路選択において厳しい面があることをふまえ、学力の向上やキャリア教育を重視するとともに、知・徳・体の調和のとれた心身ともにたくましい子どもの育成をめざす。

① 学力の向上をめざす取組の推進

- 授業の工夫・改善
- 学習習慣・生活習慣づくり
- 学力向上のマネジメントサイクル確立
- 町学力向上推進協議会及び町教育研究会との連携促進

② 豊かな心を育む教育の推進

- 道德教育の充実
- 読書習慣としての「家読（うちどく）」の推進
- 立腰指導、あいさつ運動の推進
- 青少年赤十字活動の推進

③ キャリア教育の推進

- 将来の夢や希望を育てる講演会や発表会の充実
- 社会体験・職業体験への参加

④ ふるさと教育、伝統文化教育の推進

- 総合的な学習の時間「くにとみ学」を利用したふるさと教育や伝統文化教育の推進
- 古墳、史跡、文化や歴史、自然、産業活動等を活用した教育の推進

⑤ 体育、食育の充実

- 生涯の健康を支える体力づくり
- 多様な運動体験と日常的な運動習慣の形成
- 学校給食の充実と望ましい食習慣の形成
- 「弁当の日」の取組をとおした食育の推進

⑥ 人権教育の推進

- 人権意識の高揚
- いじめをなくす指導の充実

⑦ 特別支援教育の推進

- 子どもや保護者のニーズに応じた教育の推進
- 就学指導委員会の充実

⑧ 国際理解教育の推進

- 生きた英語教育の推進
- A L Tの活用推進

⑨ 防災教育の推進

- 各種避難訓練の充実
- 危険回避能力の育成

⑩ 情報教育の推進

- I C Tの活用推進
- 情報モラルに関する教育の充実

施策 2) 小中学校の連携と接続

町内中学校へは、本庄中学校を除き、1校の小学校からそのまま中学校へ進学している。人間関係の固定化によって引き起こされる問題へ適切に対処する一方で、スムーズな小中学校間の接続を図り、効果的な教育を進めていかなければならない。また、小中一貫校の実現に向けての取組も強力に推進する。

① 全町的な小中学校の取組の推進

- 毎月1日の「あいさつの日」や毎月15日の「読書の日」の取組の推進
- 小中学校9カ年を見通した総合的な学習の時間「くにとみ学」の充実

② 中学校ブロックごとの取組の推進

- 教育内容の系統化・重点化
- 小中学校相互の乗り入れ授業
- 小中一貫した学習習慣、生活習慣の確立
- 生徒指導の充実

③ 小中一貫校の検討

- 9カ年を見通した教育課程の研究
- 一貫教育推進プランの策定

施策 3) 就学前教育の充実と小学校との連携推進

幼稚園・保育園等と小学校との連携を密にし、必要な情報交換を行うことで、義務教育に対する保護者の理解を深め、円滑な小学校就学を実現しその後の教育効果につなげる。

① 保育・教育内容の充実と幼保小連携推進

- 幼保小連携推進による職員の指導力向上
- 幼児と児童とのふれあいなど特色ある教育活動への支援
- 必要な情報の共有と伝達

② 放課後子ども教室の充実

- 学校外での、地域と連携した体験活動の重視

目標Ⅲ 町民の生きがいと健康づくりの推進

＜関連するキーワード＞ 「自立」「つながり」「ふるさと」「元気」

【現状・課題と対応】

心の健康は身体健康にもかかわりが深い。きめ細かな行政網の整備と地域や諸団体への支援を通して、一人一人の安全はもとより、スポーツや文化・芸能活動など「一人1学習・1スポーツ」をめざした町民の生きがいづくりを進めていく。

施策1) 生きがいを高める生涯学習の推進

平成25年度現在、24の生涯学習講座を開講しており、自主講座も盛んである。町民一人一人の持ち味や個性を発揮できる場として今後も一層の充実を図っていく。

① ライフステージに応じた学習の充実

- 生涯学習講座、自主講座の育成
- 少年期、青年期、婦人・高齢者等の講座の充実
- 町立図書館、町総合文化会館などの施設の活用促進
- 総合町民祭等における学習発表支援

② 特色ある文化、芸能活動の支援

- 文化協会等、各種団体の取組推進
- 文化や芸能活動の発表の場の提供

施策2) 伝統文化、史跡を活かした町づくりの推進

古墳、六日町歌舞伎人形、短歌の町づくり、伝統を受け継いだ民俗芸能（バラ太鼓踊り他）などは、ふるさとを心に刻む大切な文化である。子どもたちの積極的な地区行事への参加を促していく。

① 史跡や文化財の保護と活用

- 国指定文化財（本庄古墳群他）の活用
- 歴史や文化、史跡・文化財を活かした町づくり推進
- 児童生徒、町民への広報やふれあい行事の企画
- 町総合文化会館の展示物やイベントの充実

② 文化継承活動の推進

- 伝統芸能の保護、後継者育成支援
- 発表の場の充実

③ 「短歌の町づくり」推進

- 「ふれあい短歌大会」の充実
- 町民皆詠をめざす取組の推進

施策３） スポーツ活動と健康づくりの支援

地区体育会や町スポーツ協会、スポーツ少年団などの組織を中心にスポーツ活動が盛んである。２０２０年の東京オリンピックを見据えて機運の醸成を図りつつ、町主催のスポーツ大会、健康づくり行事等で、すべての町民の健康づくりを推進する。

① スポーツ環境の整備

- 町立体育館、町立武道館、町運動公園、地区体育館の管理と整備および有効活用

② スポーツ指導者の育成

- スポーツ推進委員、体育協会指導者、スポーツ少年団指導者の研修推進

③ スポーツや健康づくり行事の充実

- 町主催のスポーツ活動の充実
- 健康づくり活動の充実

目標Ⅳ 教育を支える体制、環境の整備・充実

＜関連するキーワード＞ 「つながり」

【現状・課題と対応】

学校教育、社会教育双方にまたがるハード・ソフト両面の管理や環境の整備充実を図っていかなければならない。

町内各教育施設や設備は、第五次国富町総合計画に基づく年次的な整備、日常的な維持管理が徹底され、安心・安全な活動環境を提供している。

近年のインターネットを介する情報漏洩問題については、学校をはじめ、教育委員会の情報管理の徹底に努めている。

施策１） 質の高い教育を支える教育環境の整備

学校を含む町民の学習を推進するため、人的・物的環境整備に関する目標を各部署相互に共有するとともに、効果的な運営がおこなえるよう全体的な計画を整備していく。

① 人的整備、ソフト面の整備

- 学校事務の共同実施など学校業務の効率化
- 各種団体運営の充実

② 物的整備

- 町立図書館・町総合文化会館における蔵書や資料の充実
- NPO法人による図書館運営の充実
- 体育施設等の整備
- 教育の新しい流れに対応する教育機器の導入
- 学校図書館の整備充実
- 施設や教材の整備

③ 情報管理

- 個人情報漏洩防止のための対策の徹底
- 情報公開の管理体制整備

④ 広域的な教育の連携、ネットワーク化

■ 隣接市町村との連携推進

施策２） 教育条件の整備

教職員の年齢構成は少子化に伴って年々高くなってきている。ベテラン教職員の指導力を期待できる反面、児童生徒の心の理解や新たな教育技術への対応が難しくなっている面も見られる。教員の研究や修養への刺激を常に提供して指導意欲・研修意欲の向上を図るとともに、若手教職員の積極的な活用を図るなどして元気な学校づくり、町の教育づくりをめざす。また、さまざまな問題に対応するための体制を構築する。

① 教職員の資質向上

- 教職員研究組織の支援
- 町教育研究センターと学校における研究面の連携
- 教育講演会の充実
- 町教育研究論文の充実

② 教育施設、設備の充実

- 時代と学習内容を見据えた教材教具の整備充実
- 予算の効果的・適切な支出

③ いじめ・不登校の相談体制充実

- 学校における相談体制の確立と機能
- 町教育相談室と学校との連携

IV 計画推進にあたって

1 財政的措置

本基本計画は、国富町第五次総合計画との関係を踏まえながら財政措置を行い、計画期間内に適切に実現できるよう重点化を図り、計画的・段階的に実施するものとする。

2 町民の意見把握とその反映

本基本計画で示した諸施策については、首長部局の町づくりの基本方針をもとに、原案をさまざまな手段で町民に提案し、パブリックコメントを集約しながら可能な限り実施と計画見直しに反映させていくものとする。

3 新たな検討が必要となる事項への対応

本基本計画は、10年ごとに見直すことを原則とするが、時代と社会状況の変化に伴って、適宜諸施策についての見直しを行う。

特に、学校教育については、さらに短いスパンでの計画の見直しを進める。

4 計画進捗状況の点検および計画の見直し

本基本計画は、年度ごとに施策の達成状況を点検・評価し報告する。また、町民に対しても教育委員会ホームページを含め、さまざまな場や機会に施策の実施状況や成果について情報提供する。